

かんぱらニニツツカンがない!!

かんくろうろうでたうでシリーズ第13巻!!

『ズーの中山』巻!!  
オキマ

小春びよりのお天気。今日も先生の授業はたたくてあった。いつものように先生のやめる声はオルゴールの音色となり。教室には他の二つの物音がびびりしている。

一つはしんしんいのチヨウの音。コンコン。コンコン。コン!  
「よか音な、メロメロのこたろなあー! へっ...よかろ!!  
おらあ 何でん矢のこらあ!! ウハウハウハハハ!!」  
かんくろうがいつものように彼女のサッチャンから新しい横文字のこらばを仕入れてきは さっそくがらいるのである。  
さて教室に二たまする... 二つの物音の もう一つは...

「ゴンゴンゴン... ゴンゴンゴン... ゴンゴンゴン」  
にびい音である。しんしんいのチヨウの音は かん高音。  
とくに 対して にびい、低い音。

教室の一番うしろの席で実に規則的に休むことなく。  
どう、実はこの音こそ、中山君の練習なのである。試練なのだ。

「ズーの中山とは、たしかに中山は動物園の男で、ズー(動物園)からニックネームがまたと思われがらであるが実はちやうど「ズーの中山がなせ」と呼ばれている。皆しんは本文を読んでいただければよくご理解にいただけるであろう!



レッスンというか、日課である。中山いわく。  
「なーん、今日はちーっ音の高かたやー、たのゴブがやわらかくなるとるけん。ちーっヒグチユグチユとるけん!!  
もーっしでかたくなるとよ。とれまてか!! たかもん」  
なんなんは自分の豆頭も、机にぶつけたいたのであま。授業も一応はきく体勢で手は両太ももにおま、皆おいをいなし。「コンナサイ」するみたい。「ゴジゴン」と。  
何のために... 完全にゴメンしてはいるわけではない...  
もちろん。もちろん女孺んで自らの意志であたまをきたえているのだ。おてこ(正確に言うて)を机に当ててね。毎日毎日欠かさず。  
「みんなはなーんも言わん。おれからこの練習はとりあげたらおれきげんわらうなッズーかますもんにやー!!」なるほど「ズーかます」これは「頭突きをかますくらめせるとい意味。「ズーかます」だから「ズーの中山」なのである。もちろん。ここまで人間またえたいれば。とこかて言試してみたいと思うのは「ズーの中山」だけではあるまい。もちろんかんくろう軍団の中では特別なわざ。特別な筆法である。かんくろうが10年間の練習。海ひがけりの練習。もちろんズーは頭つきの練習。毎日毎日欠かさないのである。冬の体育。いよいよのほせ者「ズー」がその豆頭をたたく時かきたとれはふいにかんくろうが「いった一言から始まったのだから」「くらう中山でもあの看板は無理バイ」とには乗り180cmの高さに生徒募集の金矢製のカンパンが光り輝いていて一次号へ!!